

病棟デバイスを通じた 看護観察の進化と深化

～看護師が観察したデータを、そのまま他者に伝え、
同時に記録化するシステムをどこまで実現できるか～

病棟看護師の立場から

宮越 宏幸

(福井大学医学部附属病院看護部)

看護管理者の立場から

樋口 幸子

(東京都済生会中央病院副院長)

観察支援デバイスの進歩

中野 遼太郎

(レキオ・パワー・テクノロジー(株))

観察支援システムの進歩

天野 秀紀

(フクダコーリン(株))

日時

7月7日(土)

13:30～15:00

高知市文化プラザかるぽーと
大ホール(第1会場)

座長

瀬戸 僚馬

(東京医療保健大学 医療保健学部)

保坂 良資

(湘南工科大学 工学部)

企画

日本医療情報学会 看護部会病棟デバイスWG

協力

日本生体医工学会 ユビキタス情報メディアと医療システム研究会